日伯つなぐ人材育て

静岡文化芸術大生

サンパウロで就業体験

浜松市中区の静岡文化芸術大の学生6人が19日、日本文化の戦略的対外発信拠点として外務省が海外3カ所に設置する「ジャパン・ハウス」のうち、ブラジル・サンパウロでインターンシップを始めた。ジャパン・ハウスで大学生のインターンシップを受け入れるのは初の試みという。

現地スタッフから説明を受ける学生ら（県提供）＝19日、ブラジル・サンパウロ

日伯移民110周年を契機にした県の派遣事業の一環で外務省、ブラジル静岡県人会が協力した。両国の懸け橋となる人材の育成と親善交流を兼ねて3月1日まで同国で研修し、若者による地域外交を促進する。参加した学生はアートマネジメントなどを学ぶ女性6人で、2人はブラジルにルーツがある。

インターンシップは24日までの日程。初日は施設内を見学し、運営部門の事業内容について説明を受けた。今後、文化、ビジネス、情報などの各部門の業務を学び、案内補助や資料整理の手伝い、企画展の準備などを体験する。学生目線でジャパン・ハウスへの提言を行い、来館者向けに日本や静岡を紹介する機会も設ける。

県人会の会員宅にホームステイして移民の子孫と交流を図り、掛川出身の平野運平氏らが開拓した街を訪ねて移民の歴史も学ぶ。

日本で生まれ育った日系3世のミウラサユリさん（国際文化学科4年）は「自分のルーツの国で日本文化がどう発信されているか知りたい」と語った。

（浜松総局・青島英治）

静岡新聞

© 静岡新聞社　無断複製転載を禁じます